

# ブラジルの利下げについて

2012年4月20日

## 《ブラジル中央銀行が追加利下げを発表》

4月18日、ブラジル中央銀行は、同国の政策金利であるSELIC(翌日物金利)を0.75%引き下げ9.0%とすることを発表しました。これにより昨年8月に利下げに転じて以降6回、合計で3.5%の引き下げ幅となり、8.75%(2009年7月～2010年4月)の過去最低水準に近づきました。

### ●市場の予想通り追加利下げを実施し政策金利は9.0%へ

ブラジルでは、実質GDP(国内総生産)の成長率が2011年通期で前年比+2.7%にとどまり、景気は減速傾向にあります。欧州債務問題や海外景気の先行きも不安定な部分が残っています。物価水準については3月の消費者物価指数が前年比+5.2%となり、政府・中央銀行が目標としている4.5%±2%(2.5%～6.5%)の範囲内で推移しています。これらの要因を背景に、追加利下げを実施したものとみられます。

### ●今後の見通しについて

#### 1.景気について

景気については、個人消費関連やブラジルレアルの下げを受けた自動車輸出の回復など、足下の経済指標では底入れが近いことを示唆するものが散見されて始めています。また、昨年来の金融緩和の浸透、財政規律を守りつつ進めている社会インフラ整備などの景気対策の効果も徐々に現れてくると考えられます。

一方でリスク要因としては、同国資源の主要な輸出先である中国の景気鈍化があります。しかし、IMF(国際通貨基金)が4月17日に発表した最新の世界経済見通しによると、ブラジルの成長予測を2012年は+3.0%、13年は+4.1%と前回発表時点(2012年1月時点)より成長予測を上方修正しています。また、同レポートでは中国についても2012年は+8.2%、13年は+8.8%の予想としており、中国も回復基調にあることを示唆しています。

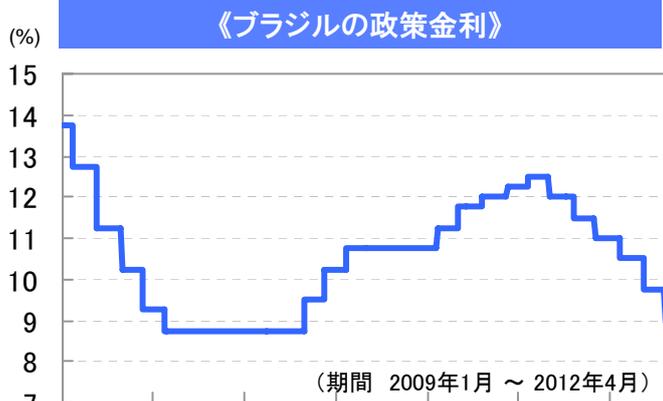
#### 2.政策金利について

ブラジル中央銀行は3月に政策金利のターゲットを9%程度とする方針を示唆しており、今回の利下げでその水準(9%)に達したため、当面は利下げの打ち止めが予想されます。

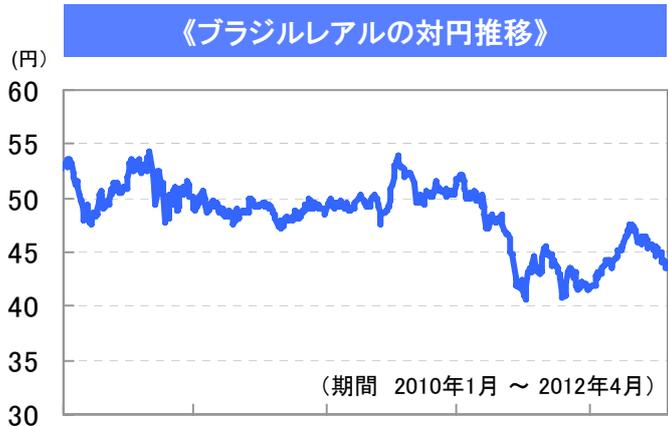
#### 3.為替レートについて

ブラジルレアルについては、景気に改善の兆しがみられること、今後利下げの打ち止めが見込まれること、米国、日本などの先進国で追加金融緩和の可能性が残ることなどから、4月に入り軟調に推移していたブラジルレアルは徐々に底堅い動きに転じるとみられています。

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



09/1 09/7 10/1 10/7 11/1 11/7 12/1 (年/月)  
出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成



10/1 10/7 11/1 11/7 12/1 (年/月)  
出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成